

国語

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(多田道太郎『日本語の作法』による)

(注) フイジ―的作法Ⅱ自分を低めて、相手に敬意を示し、品位を高めるような作法

問一 傍線部(1)～(3)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄

I

II

III

に入る適切な敬語の名称を漢字で答えなさい。

問三 傍線部(ア)「つきあたりの酒屋さんでうかがって下さい」とあるが、このように言った人は酒屋さんを尊敬しているかどうかを答え、その理由を述べなさい。

問四 空欄

IV

V

に入るもつとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 しかも

2 つまり

3 あるいは

4 ところで

5 しかし

6 だから

問五 傍線部(イ)「呼び捨て」と同じような意味のことばを文中から四字で抜き出して答えなさい。

問六 空欄

VI

に入るもつとも適当な漢字一字を答えなさい。

問七 傍線部(ウ)「職縁」と同じような意味のことばを文中から十字程度で抜き出して答えなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問八 傍線部(エ)「そのしつけ」とあるが、それを説明している箇所を解答欄に合うように文中から三十字以内で抜き出して答えなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問九 敬語の使い方について、本文の内容を参照して考察し、その結果を以下の文章にまとめた。空欄に入る適語を語群から補充して答えなさい。

〔語群〕	
こういった人	・ 尊敬語
・ 聞いた人	・ お聞きになる
・ 丁寧語	
お聞きする	・ 酒屋さん
・ 主体	・ 謙譲語
・ 客体	

「酒屋さんでうかがって下さい」が、聞いた人に対する言い方としておかしいと感じるのは、「うかがって下さい」の「うかがう」が 1 だからです。これは、聞いた人の動作に用いる敬語ではありません。聞いた人を立てるためには、2 を用いる必要があります。この場合は、「3」を使えば良かったのです。

このような「うかがう」は、「聞く・尋ねる」という動作の 4 を立てる敬語といわれ、「うかがって下さい」では、5 を立ててしまうことになり、聞いた人を尊敬する敬語にはなりません。「6」といった敬語も、「うかがう」と同じ性質の敬語です。そのため、「酒屋さんでお聞きして下さい」も聞いた人に対しては用いることができません。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

（永井龍男『朝霧』による）

(注1) 沙翁^{さおう}Ⅱイギリスの劇作家シェークスピアのこと

(注2) ホラチウスⅡ古代ローマの詩人

(注3) ホメロスⅡ古代ギリシャの詩人

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名のものは漢字に直し、漢字のものは読みを平仮名で書きなさい。

問二 傍線部(ア)「埒はあかない」、(イ)「『引導』を渡し」とあるが、「埒があかない」「引導を渡す」の意味としてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

(ア) 埒があかない

- | | |
|---|----------|
| 1 | 相手にされない |
| 2 | 事態が進展しない |
| 3 | 本気になれない |
| 4 | 勇気が出ない |
| 5 | 良い結果が出ない |

(イ) 引導を渡す

- | | |
|---|---------|
| 1 | あきらめさせる |
| 2 | 嘘をつく |
| 3 | おびえさせる |
| 4 | だます |
| 5 | びつくりさせる |

問三 空欄 A

には、「煮え切らない」という意味を持つ四字熟語が入る。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 曖昧模糊

2 謹厳実直

3 傲岸不遜

4 豪放磊落

5 優柔不断

問四 空欄 B

C

に入る語としてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 おろおろ

2 こそこそ

3 すらすら

4 ずるずる

5 たらたら

6 べたべた

問五 傍線部(ウ)「この茶番」とあるが、その内容を具体的に示している一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問六 傍線部(エ)「私の神経も、この座敷に戻っていた」とあるが、「神経」が「この座敷に戻る前の「私」の状態を説明した次の文の空欄に入る適当な文を、十字程度で書きなさい。

その場の雰囲気巻き込まれないために、

を考えていた。

問七 傍線部(オ)「占めた！ と私は思った」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 老夫人がX氏に「良英の選んだ女性」を積極的に薦めていることが分かったから。
- 2 老夫人の口から、良英に対する文句をこれ以上聞かれないで済むと思ったから。
- 3 老夫人の叫びによって、不毛なやり取りを聞くことから解放されると思ったから。
- 4 老夫人の言葉に乗じて、煮え切らないX氏を説得することができると考えたから。
- 5 老夫人の言葉によって、ラセラスのことで悩まなくて済むようになると思ったから。

問八 本文の内容として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は良英が選んだ女性を彼にとってふさわしい人だと確信したので、彼に協力することにした。
- 2 良英の言い分によれば、彼が家出をするのは「嫁が息子を奪う」という両親の妄想を取り払うためだった。
- 3 「私」は良英が家出をするという計画を知らされないまま、家出の翌朝にX家を訪れることになった。
- 4 X氏が口にした「ラセラスは……」という場違いな言葉を聞いて、「私」も老夫人も啞然とした。
- 5 家出という「最後の手段」が功を奏し、良英は自分が選んだ女性と結婚することができた。

問九 作者の永井龍男は、第二次世界大戦後に長く活躍した小説家である。彼と同じく、第二次世界大戦後に活躍した人物を次の中から一人選び、番号で答えなさい。

1 芥川龍之介

2 有島武郎

3 井伏鱒二

4 中島敦

5 夏目漱石

選択問題

三

(その一・古文) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(『十訓抄』による)

(注1) 成範卿しげのり＝藤原成範。正二位、中納言。藤原通憲(信西)の三男。「ことありて」は平治の乱で父信西が権力者の地位を追われ、下野の国に流罪となった一件を踏まえる。

(注2) 入立いりたち＝女房の詰所である宮中の台盤所に立ち入ることを許された者。

(注3) 小松大臣こまつのおとど＝平重盛。平清盛の嫡男。従二位、内大臣。

(注4) かき上げの木＝灯心をかきたて、炎を明るくするための木の棒。

問一 傍線部(1)「内裏」、(2)「御簾」の読みを平仮名で答えなさい。

問二 空欄

A

B

にはどちらも助動詞「ず」が入る。これを文中に合うようにそれぞれ適当な形に活用させて答えなさい。

問三 空欄

C

にもっともふさわしいと思われる文字を平仮名一字で答えなさい。

問四 成範卿の返歌はどういう内容だったのか。問三を踏まえて、下の句を現代語訳しなさい。

問五 空欄

D

には「ありがたし」が入る。これを文中に合うように適当な形に活用させて答えなさい。

問六 (1)『十訓抄』は文学史上、どのようなジャンルに分類されるか。(2)また、『十訓抄』とおよそ同時代と考えられる作品は何か。(1)(2)それぞれの選択肢の中からもっとも適当なものを選び、番号で答えなさい。

(1) 1 歌物語

2 軍記物語

3 随筆文学

4 日記文学

5 説話文学

(2) 1 源氏物語

2 平家物語

3 雨月物語

4 竹取物語

5 栄花物語

（その二・現代文） 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(森本哲郎『私』のいる文章』による)

(注) ウルⅡ現在のイラクにある古代都市

問一 傍線部(1)、(2)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 傍線部(ア)「拍子抜け」、(イ)「やるせない」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

(ア) 「拍子抜け」

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 手を打ち合わせながら音を出さないこと |
| 2 | 手拍子の調子がよくないこと |
| 3 | 気持がくじけ意欲がなくなること |
| 4 | 緊張感を取り除きゆったりすること |
| 5 | 不調を乗り越えて意欲を抱くこと |

(イ) 「やるせない」

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 憂鬱で心が晴れそうにない |
| 2 | 悲しくて慰めようがない |
| 3 | ゆとりが全くない心持である |
| 4 | どうにもならない気持である |
| 5 | 許すことができない心境である |

問三 空欄 A

B

D

に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|---|------|---|----|
| 1 | だから | 2 | つまり | 3 | あるいは | 4 | しかも | 5 | なぜなら | 6 | だが |
|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|---|------|---|----|

問四 傍線部(ウ)「さも軽蔑したようにいった」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「カメラ好きの友人」が「さも軽蔑したようにいった」のは、なぜか。「筆者の写真に」に続ける形で句読点を含めて二十
五字以内で答えなさい。

(2) この文章を読んだマミさんは、自分の撮った写真を発表することにした。「カメラ好きの友人」に批判されそうな写真
を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 虹がかかったように見える川の写真 | 2 山頂から眼下に広がる雲海の写真 |
| 3 水平線の向こうに浮かぶ島の写真 | 4 ファストフード店の写る古都の写真 |
| 5 紅葉の美しい神社仏閣の写真 | |

問五 空欄

C

には、同じことばが入る。もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 非主体的 | 2 非科学的 | 3 非人道的 | 4 非現実的 | 5 非倫理的 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

問六 本文の内容にもつとも合うものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 人は、現実世界で写真を撮らないものである。
- 2 現実とは、意識的に目を背けたくなるものである。
- 3 イメージは、物の見方や認識を左右するものである。
- 4 写真とは、イメージと現実との狭間にあるものである。
- 5 取材でもつとも大切なことは、新しいイメージである。

【一】

- 問一 (1) 平然 (2) 美德 (3) 素朴
- 問二 I 謙譲語 II 尊敬語 III 丁寧語
- 問三 尊敬していない。なぜなら、見知らぬ人を尊敬するという習慣が現代にはないから。
- 問四 IV 2 V 6
- 問五 敬称ぬき
- 問六 血
- 問七 会社の同僚とのつながり ※「企業の身内の紐帯」は減点
- 問八 他社の人に対しては、同僚——いや上役をも、呼び捨てにする(こと)
- 問九 1 謙譲語 2 尊敬語 3 お聞きになる 4 客体 5 酒屋さん
6 お聞きする

【出題意図】

- 問一 漢字の読み書きの能力を問う
- 問二 文脈の理解力と敬語の知識を問う
- 問三 論理的な読解力と表現力を問う表現(修辞法)の理解と書字力を問う
- 問四 接続語の補充によって文脈の理解力を問う
- 問五 語句の補充によって内容の理解力を問う
- 問六 語句の補充によって内容の理解力と語彙力とを問う
- 問七 文脈の理解力を問う
- 問八 内容の理解力を問う
- 問九 文章の内容をもとにして、課題を探究し、表現する能力を問う

【二】

- 問一 (1)奮起 (2)しゅっぱん (3)抑揚 (4)そうちよう
- 問二 (ア) || 2 (イ) || 1
- 問三 5
- 問四 B || 4 C || 1
- 問五 母方の若い
- 問六 ラセラスが何者であるか/ラセラスの正体 など
- 問七 4
- 問八 3
- 問九 3

【出題意図】

- 問一 基本的な漢字の知識

- 問二 語彙力の理解
- 問三 語彙力の理解
- 問四 オノマトペの理解
- 問五 内容の理解
- 問六 内容の理解と要約力の確認
- 問七 登場人物の心理の理解
- 問八 内容の理解
- 問九 文学史の知識

三

その一・古文

- 問一 (1) だいいり (2) みす
- 問二 A ㍿ざり B ㍿ね
- 問三 ぞ
- 問四 (私は、帰郷を許されたとはいえ、流罪となり行動を制限された身の上。禁裏・御所・宮中・内裏は、かつて私がそこにいた時と何も変わっていないというが、であるならばなおさら、かつて見た禁裏・御所・玉すだれの内側が恋しくてならない。
- 問五 ありがたかり
- 問六 (1) 5 (2) 2

【出題意図】

- 問一 古語の常識を問う。
- 問二 文法的知識を問う。
- 問三 文法的知識を問う。
- 問四 文脈理解と現代語訳能力を問う。
- 問五 文法的知識を問う。
- 問六 文学史的知識を問う。

その二・現代文

- 問一 (1) 惜 (2) 誕生
- 問二 (7) 3 (4) 4
- 問三 A ㍿2 B ㍿6 D ㍿4
- 問四 (1) (筆者の写真に) イメージにそぐわない電線や電柱が写っていたから。(25字)
- (2) 4
- 問五 4
- 問六 3

【出題意図】

- 問一 基本的な漢字の書き取り
- 問二 語彙力の確認
- 問三 文章構造の理解力の確認
- 問四 内容の把握
- 問五 内容の把握
- 問六 内容の把握